

厚木市文化芸術振興委員会第2回会議 議事録

会議の名称	厚木市文化芸術振興委員会第2回会議
会議の主管	産業文化スポーツ部 文化魅力創造課
会議の日時	令和7年12月23日（火）午後3時から午後5時まで
開催の場所	あつぎ市民交流プラザ5階 ルーム502
出席者	厚木市文化芸術振興委員会委員6人
説明者	事務局（産業文化スポーツ部長、同次長、文化魅力創造課長、同文化芸術振興係副主幹兼係長、同副主幹）
傍聴者	なし

会議の経過は次のとおり

1 厚木市文化芸術振興委員会第2回会議

- (1) 開 会 文化魅力創造課長
- (2) あいさつ 委員長
- (3) 案 件

ア 厚木市文化芸術振興条例運用状況に対する意見書（案）について
資料1に基づき、事務局から説明
質疑等なし

イ 第2次厚木市文化芸術振興計画基本方針別総合評価一覧意見書（案）について
資料2に基づき、事務局から説明

《質疑応答》

委 員：確認だが、条例の意見書については、積み上げていくということになると、意見書に記載の「期待されたい」など書かれていることについては、最悪4年間何もされないということになるのか。

事務局：こちらの意見書は、条例改正するかどうか判断するために次の改正までに蓄積するものである。毎年度の結果の中で、すぐに条例改正が必要だという踏み込んだ御意見が出れば、改正の検討をすることになるが、まず基本的には取組に反映させることから始めることになる。条例文については、「文化芸術の継承等」といった、大きな話が記載されている。御意見は、いただいたまま何もしないということではなく、事業結果については、担当課にフィードバックし、改善は行っている。条例改正は、よほどの必要性、例えば、新たな視点がないと目的が達成できないといった重たい理由がないと難しい。

委 員：条例は題目だと思われる。その下に具体策があると思われる。具体策の事業の中身は毎年見直されていないという認識である。例えば、子どもの感性を高めることが必要だ、という意見に対して、具体化するためのスキームが、どういうスキームなのか。4年に1回考えるのか。

事務局：御意見は、事業に反映させるために庁内で周知させていただく。特に新たな計画については、これから文化芸術に関連が深い担当課を集めた庁内検討組織を作る予定で、ゼロベースで、こういった計画を作るか検討を行う。大きな柱が決まった後で、委員の皆様が重要だと考えている視点をその組織で共有し、既存の取組において、委員の意見が反映、実施できているのか、できていないのであれば、新規事業を検討すべきか、そういった視点から検討する。また、すべての関連課にも御意見を共有する予定であり、そうした点からも反映できると考えている。

委員長：細かいところだが、資料に（案）と記載されているが、この「案」は取れるのか。

事務局：配布資料の記載内容でよろしければ、「案」を取る形にさせていただければと思う。仮に、この場で、委員の皆様の御意見により、大幅な修正が必要になった場合は、別途修正し、後日御確認いただくこともあろうが、この資料でよろしいということであれば、この会議をもって、「案」を取らせていただければと思う。

委員長：先ほどの委員からの発言については、意見書には入らないが、先ほどの説明の制度で対応していくということか。

事務局：その通りである。

ウ 第2次厚木市文化芸術振興計画に係る意向調査 調査結果（中間報告）について

《質疑応答》

委員長：この資料に入っている調査票は、対象者に配られたものと同じか。

事務局：その通りである。

委員長：重箱の隅を突くような質問であるが、問10は、市が主催、関わっている事業についてなのか。それとも、主催は別で場所は厚木市ということなのか。基本的には、答える方は、市が主催しているものを想定して、その前提で、情報入手媒体は、広報誌、と答えるのではないかと思う。または、好きなアーティストについての情報をネットで見たものが厚木だったと思い出すこともあるかもしれない。聞き方としては、何かこだわりがあったのか。こういったことを期待していたのか。

事務局：問10については、市が主体、主催になっているものを記載している。関連として、問8については、新設の設問であり、「市内で開催される文化芸術に関するイベント情報を」と記載している。基本的には、市が主催するイベント情報を想定しているものであるが、言われるとおり、市主催のイベント以外のもので、開催場所が厚木市というイベントもあるかと思われる。この設問を設定した前提として、市民の皆様が、市主催のイベント、そうでないイベント、両方について、こういった媒体で情報を得ているのかを把握したいという意向があった。今日お示ししていないがクロス集計で、何歳代の方がこういった媒体で情報を入手しているのか、詳しく知りたいということである。上位の回答になったものを見ると、こういったイベントを想定して回答しているのかも見えてくると思われる。例えば、仮に「市以外のSNS」と回答する人が多い場合、市のイベントをPRしてくれるインフルエンサーがいるの

か、そうでなければ、市主催以外のイベントを想定している方が多いのではないか、などその辺りもクロス集計見ながら分析できたらと思う。

委 員：興味本位だが、3,000 人のロケーションは。

事務局：市域全体である。人口に応じて人数は決めている。

委 員：回答は。

事務局：地域を答える設問を設定していないので回答者の地域は把握していない。

委 員：文化芸術活動に参加するといった場合に、近くに参加できる施設がないと参加できない。今後詳細の集計が出るとのことだったので、文化芸術活動と施設の場所との関係が出るのであれば興味があった。

事務局：前回の調査においても入れていない。活動と活動場所へのアクセスは相関関係が把握できる可能性はある。今回の計画を策定した後も、調査は継続して実施するので、次回調査する際の参考にさせていただく。

委員長：実際の距離の問題ではなく、身近なところにあると思うかどうかを聞くのも意味があるかもしれない。

エ 文化芸術振興に係る意見交換について

《意見交換》

委 員：仕事と同じで人・モノ・カネが必要だが、人については、確実に高齢化は進んでいる。若い人をどうやって集めていくか。モノについては、練習場所について、大きな会場がないと活動できないが、減っていく方向だと思う。活動する上で不安である。カネは補助をいただけるとありがたい。

委員長：後に続く方がいないのか。

委 員：少子化も原因だと思うが、平均年齢が上がっている。新陳代謝ができればいいができない。どこでも同じだと思うが。

委 員：意見があるわけではないが、私は、皆さんのように何か好きなものがあって活動しているわけではなく、昔から続く、娯楽がなかった時代からの芝居などを次の世代に続けるために活動している。見ている人が楽しいのかと言われると、そうでもないという問題がある。高齢化で新しい人が入ってこないのは深刻な問題である。ただ、郷土芸能は道徳の時間で扱われているようで、保護されている。相模人形芝居は国の指定になっており、ささら踊りも県の指定になっている。補助金もわずかだが、いただいている。場所に関しては押さえてくれているのでそこで練習はしている。

委員長：鑑賞者の傾向は。

委 員：相模人形芝居は5つの団体があり、年に1回各地域が担当になり、大会がある。郷土芸能まつりでも発表している。20数年前、見てくれる人は、まばらだったが、今は増えている。ネットの力は大きかったと思う。県外から見つけてくれる人はネットである。

委員長：道徳の時間の影響は大きいのか。

委 員：大きいと思う。見てくれる人は、年齢層が上がってきたせいか、多くなっている。仕事を終えて自由の時間がある方が足を運んでくれている。

委員長：予備知識があった上で、見てもらえているのではないのか。

委 員：それもある。

委 員：相模人形芝居はグレードが高いので、それでお客さんが増えているのではな

いか。

委員：そうだと嬉しいが。昔は、先生もいなかったが、先生を探した。また、昔は農村の舞台でやっていて、ござを敷いて見ていた。そうすると、人形の頭が見えるので、それが鉄砲刺しと呼ばれて、指定になっている。今の持ち方は鉄砲刺しではないが。

委員長：道德の時間の話が出たが、初等教育の段階で、郷土芸能に触れ、年代が進んでから、本物を見たい、と思う場合もあると思う。郷土芸能だけではなく、文化芸術も同じで、大人になってから、本物を見るために足を運ぶということがあるかもしれないし、逆もあるかもしれない。

委員：出前講座で保育園、高校などで体験してもらったりしている。1回見れば大人になってから、再び興味を持ってもらえるかもしれない。

委員長：ささら踊りを存じ上げないのだが。

委員：ささら踊り盆唄保存会、というものがあって、女性が、「ささら」という竹で作られた楽器を持って、浴衣で盆踊りを行うものである。長谷と愛甲に保存会があり、昔は掛け合いをしていて、唄の内容がおもしろいので保存活動が行われているのではないかと思う。

委員長：小学校などが見学したい場合可能か。少し話は変わるが、フィルムコミッションのような、こういう風景撮りたい場合はここがある、というような形で、教育プログラムのような形で、今、こことこの時期が空いている、というのが分かったと良いのかなと思った。

事務局：文化財保護係において、事前に希望を取り、市内小中学校に出張で講座をしている。フィルムコミッションではないが、保存・伝承として、ホームページで出前講座の案内をしている。

委員長：クラシック音楽は詳しくないが、ゲネプロなどをふらっと見に行くことは通常難しいか。

委員：ステージリハーサルを開放することを企画すればできる。話を聞いていて、自分が芸術に参加する、関わる、という話と、鑑賞者として、よりどうやったら、文化芸術振興がもっと広がるか、ということと、時間がないが、もっとディスカッションした方がいいかなと思う。学校を回っているという話が出たが、子どもの感性は鋭いので、いいものを見せることはすごく大事だと思う。所属する団体の活動において、たまに、公民館などや自治会などに呼ばれて、演奏をする機会があるが、演奏して一緒に歌を歌ってもらったりするとすごく喜んでもらえていい活動だと思っている。

委員長：市が郷土芸能をコーディネートする話があったが、それは文化芸術振興としての話か。

事務局：教育委員会にあった郷土芸能の部署と、文化芸術振興の部署が、昨年度機構改革で一緒になった。郷土芸能のコーディネートは、市の指定の無形民俗文化財の伝承を進めていくという中から始まったものだと聞いている。ただ、文化芸術は幅が広いので、伝統芸能だけでなく、クラシックバレエなど、様々な分野を推進していく必要があると考えている。

委員：直接関係ないかもしれないが、書道教室をやっていて、半紙のサイズが学校によってバラバラである。市の教育委員会はどのような体制になっているのか。

事務局：教育委員会の担当課ではないので、正確なお答えはできないが、学校長の判

断によるものであると思う。後ほど、確認するが、教育指導要領における記載もないと思う。書初め自体をやらない学校もあると聞いている。

委員長：書初めが並んでいるというところを想像すると、小学生は、感性が高い時期なので、自分を表現する場所が、学校だけではなく、いろいろな身近に施設にあり、自己表現する場がここだけではない、というような切り口で、そういう場が提供できればいいと思う。大きな話になるが。

事務局：そういった活動の場を提供するのも文化芸術振興の目的として目指すところではないかと思う。今後も、委員会で、そうした視点を検討いただきながら、新たな計画の策定を進めていければと思っている。

委員長：フィルムコミッションではないが、場所の詳細、床や空間の広さなどが公開されていれば、例えば、古民家など、発表する場所として活用する人もいるかもしれない。自分の地域と近ければ活用する可能性もあるかもしれないと思う。

事務局：本市は近隣と比べて15地区に公民館が完備されているなど、練習ができる環境が整備されている方であると考えている。大きな音が出せないなどの制約はあるが、比較的古くから活動場所の提供はできていると思われる。文化会館、アミューもある。そういった施設を親しみやすい場所にしていくのも大事ではあると考えている。

委員：ダンスを指導したり、踊ったりしているが、コロナの時もおかげさまで発表会は開催できた。3歳から60歳代までの生徒さんがいるが、1年に1回は、生徒さんのための発表会を開催してきた。また、市民芸術祭でチャンスをいただいて参加したり、自分のスタジオにおいて親子で簡単なダンスを踊ってコミュニケーションをとるワークショップを開いたり、いろいろな活動をしている。課題は、どうしても発表会が内輪になりがちなことである。もっと外部の方が見に来てほしい。この間の市民文化祭もお客さんが少なかった。出演者は多く、様々なジャンルがあって素晴らしいので、もっと見る人がいればいいと思う。市も市民の皆さんに呼びかけてくださっていると思うが。毎年思うが、広がりをもっていくのが難しい。市がいろいろやってくれている割には観客が少ないのが、悩みである。内輪ではなく、見たことのない人たちが、ジャンル関係なく足を運んでいただきたいと常に思っているが、どうしたらいいのかと思う。

委員：音楽まつりとして、我々も合唱、オーケストラ、吹奏楽、ギターなどを10分くらいの交替で演奏したが、同じような状況である。客席は、まばらとまでは言わないが、私が所属する団体で演奏会をするときよりは、はるかに少ない。企画をどうするかだと思う。オーケストラの伴奏の前でワルツのダンスを踊るなども一つのアイディアである。

委員：そうなれば、お客さんを両方から呼べる。そういうアイディアも実現したい。何かみんなが一つになれるものがないかと思っている。絵画とダンスのコラボは実施したことがある。伝統とモダンなど、一つになればお客さんの幅も広がるのかなと思う。伝統は大事であるが、新たなものを生み出すのも大事だと思う。

事務局：市民文化祭の観客が少ないのは気になっている。出演者は、自らの出番が終わると帰ってしまうのも要因であると思われる。今年度はワークショップも開催したが、きっかけづくりとしてワークショップがあるのはいいことだと

考えている。ワークショップをきっかけに、その後、会場に足を運んでもらえることもあると思う。我々も足りないところは改善が必要であり、演者の方々の運営の仕方も変えていく必要がある部分もあろうかと思われる。

委員：コラボレーションの話で、人形、ダンスとバイオリンなどとのコラボレーション企画を動画で見たが、また見たいと思うほど素晴らしかった。

委員：今日配布されているパンフレットは、立派なものであるが、どこかに出しているのか。海老名市のビナレッジでボランティア活動しているが、アミューと同じように、パンフレットが置かれているが、座間市、綾瀬市などのものはあるが残念ながら厚木市のものはない。皆さん、手に取って持って帰っているので、厚木市のものがどこかに並べられると皆さん持って帰られるのではないかと思う。

事務局：秦野市、伊勢原市、愛川町、清川村とのやまなみの協定の中で、互いのイベント周知をしているが、海老名市はその枠には入っていないので、そうした取組がない可能性がある。本市文化会館では、近隣市町村のものが置いてある。今後、近隣の市を含めて、より積極的に周知ができるようなことがあれば検討したい。

(4) そ の 他

次回の会議は2月上旬を予定している。日程については、追って御連絡する。

(5) 閉 会